



金子 潤/ Jun Kaneko, 無題/ *Untitled*, 2016
陶/ Ceramic, H38 × W29 × D15.9 cm/ H14.9 × W11.4 × D6.2 in.



草間 詰雄/ Tetsuo Kusama, *Jiku-O*, 2018,
レーヨン糸、ステンレス、プラスチック/ Rayon, Stainless Steel and Plastic,
H90 × W15 × D2 cm/ H35.4 × W5.9 × D0.7 in.



ジョン・メイソン/ John Mason, *LT BLUE GREEN TORQUE, LARGE SCALE*
2015, 陶/ Ceramic, H73.7 × W37 × D37 cm/ H29.0 × W14.5 × D14.5 in.



「色の温度」

出展作家：

マット・ウェデル、金子潤 草間喆雄、黒川徹、小坂未央、ファウスト・サルビ、
竹村友里、アナ・スー・ホイ、ジョン・メイソン

2020年6月6日（土） - 6月27日（土）

艸居アネックス

〒604-0924 京都市中京区一之船入町 375 SSS ビル 3F

ホームページにて公開

<http://gallery-sokyo.jp/exhibitions/>

プライベート観覧（ZOOM/ 艸居アネックス）

プライベートにてご観覧をご希望の方は、info@gallery-sokyo.jpまで事前にご連絡下さいませ。

プレスリリース

この度、現代美術 艸居ではグループ展「色の温度」を開催致します。今展では、様々な色彩を巧みに表現する9人の作家がどのように色と作品との関係性を構築するか検証致します。

作品鑑賞において意図主義的立場を取るのであれば、色彩の役割は大きなものと言えます。どうして作家はその色を使用したのか、使用したことによる効果は何なのかなど、色彩を取り巻く問いは作家個人の思想や記憶にまで手掛かりを広げます。同じ色を使ったとしても、作家ごとにその意味合いや概念が変わり作品の性質を変えていきます。

「Torque, Stellar Blue」、 「Sculpture, Slab Construction, Blue Green」、 「Sculpture, Black」、 「Torque White」、 「Relief, Yellow-Orange」、 「Plate, Yellow with Green」 など、色彩とフォルムを融合させ抽象表現と幾何学的造形の世界を確立したジョン・メイソン。「Ember Figure」、 「Charcoal Cross」 などフォルムの構造を線対称、回転させることでより感興ある造形を生み出し、焼成という陶芸独特の過程を、土の改良と釉薬の色彩と性質を巧みに操ることで最大限の魅力として作品に表



現しました。空間的な体験、視覚的錯覚、建築的なインスタレーションなど、土の可能性を大きく飛躍させた革新的な作品を制作しました。

ずんぐりとした土の造形に明快な色彩表現を多用する金子潤は、色彩について次のように述べています。「私にとって色は視覚的な香りのようなものです。ひとつの色が他の色よりも完全だとは信じていません。また、色の意味も完全ではありません。色は生きているのです。塩とコショウのように、色はその立場を変化させます。ある食べ物に塩をかけ、別の食べ物に塩をかけたとしても、同じ味にはならないのです」(スーザン・ピーターソン著『JUN KANEKO』p. 67)。

70年代に渡米し、ファイバーアートの芽吹きを渦中で体験した草間喆雄。帰国後もテキスタイルを用いた様々な色彩を用いて空間構造における革新的な制作に挑戦してきました。近年は樹脂やステンレスに直接糸を巻きつけるコイリング技法を用いて、「OPTICAL ILLUSION」という色彩を巧みに組み合わせることで視覚的な錯覚を構築し、より立体的な作品を制作しています。今展では貴重な過去の作品と近年の作品をご紹介します。

ミラノの作家、ファウスト・サルビは独特な現代マヨリカの色合いと低温焼成の肌触りが特徴で、イタリア人気質に満ちたユーモア溢れる作品で私たちを楽しませてくれます。その他、黒川徹がカリフォルニア州立大学ロングビーチ校でのアーティストインレジデンスに招聘された際に制作した作品は、銀黒陶で知られる作品とは一転し、カリフォルニアの海や空の色から感化を受けた色鮮やかな青や緑の釉薬が施され、色彩と造形のバランスの調和に成功しました。一点はロサンゼルスカウンティ美術館に収蔵されています。

色は人間の感覚に直接的にアプローチし、感情と深く関わります。機械化された高度な現代社会において私たちが見落としている色はないでしょうか。色と色の間に存在する多彩な色彩を今展を通して感じ取っていただければ幸いです。

[作家紹介] (苗字50音順)

マット・ウェデル (Matt Wedel)

1983年アメリカ、コロラド州バリセード生まれ。2005年 The School of the Art Institute of Chicago 卒業。2007年カリフォルニア州立大学大学院ロングビーチ修了。主な受賞歴に 2002年メサステート・カレッジ第26回年間学生展覧会陶芸彫刻部門一位、2018年サント財団個人アーティスト賞、2019年オハイオ・アート・カウンシル個人優秀賞など。収蔵先にクレイ・ミュージアム・オブ・セラミックアート(ミドルファート、デンマーク)、ロングビーチ美術館(ロングビーチ、アメリカ)、セント・メアリー大学アートギャラリー(ハリファックス、カナダ)など多数。

金子 潤 (かねこ・じゅん)

1942年名古屋生まれ。1964年ロサンゼルス、Chouinard Art Instituteで学ぶ。1966年カリフォルニア州立大学バークレー卒業。1971年クレアモント大学院修了。主な収蔵先に、京都市京セラ美術館(京都)、国立工芸館(石川)、東洋陶磁美術館(大阪)、金沢21世紀美術館(石川)、山口県



立美術館（山口）、デトロイト・インスティテュート・オブ・アーツ（デトロイト、アメリカ）、ガーディナー美術館（トロント、カナダ）、オーストラリア国立ギャラリー（キャンベラ、オーストラリア）、スミソニアン・アメリカ美術館（ワシントンDC、アメリカ）、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館（ロンドン、イギリス）など多数。

草間 喆雄（くさま・てつお）

1946年東京都生まれ。1973年米国クランブルックアカデミーオブアート大学院修了。ユタ大学芸術学部助教授、成安女子短期大学教授、岡山県立大学教授を歴任。現在、岡山県立大学名誉教授。紺綬褒章。主な収蔵先はベルリブ美術館（チューリッヒ、スイス）、国立工芸館（石川）旧東京国立近代美術館工芸館（東京）、国立国際美術館（大阪）、京都市京セラ美術館（京都）など。

黒川 徹（くろかわ・とおる）

1984年京都府生まれ。2007年筑波大学芸術専門学群美術主専攻彫塑コース卒業。2009年京都市立芸術大学美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器修了。主な受賞歴は神戸ビエンナーレ准大賞（2007年）、現代陶芸ビエンナーレ長三大賞（2007年）、国際陶磁器フェスティバル美濃17審査員特別賞（2017年）。主な収蔵先はロサンゼルスカウンティ美術館（ロサンゼルス、アメリカ）、新北市立鶯歌陶瓷博物館（新北、台湾）、アルゼンチン近代美術館日本の家（ブエノス アイレス、アルゼンチン）、エジプト文化庁（カイロ、エジプト）、チュニジア文化庁（チュニス、チュニジア）、京都市京セラ美術館（京都）、滋賀県立陶芸の森（滋賀）など。

小坂 未央（こさか・みお）

1982年北海道釧路生まれ。2004年倉敷芸術科学大学芸術学部工芸学科卒業。2014年金沢卯辰山工芸工房入所。受賞歴は2005年60周年記念全道展入選、2008年ピアマガランカイ7入選、2014年第54回日本クラフトコンペティション入選、2015年第23回テーブルウェア大賞入選、2015年金沢市工芸展入選、2016年国際ガラス展・金沢2016奨励賞。

ファウスト・サルビ（Fausto Salvi）

1965年イタリア、ブレシア生まれ。1982年ガルニャーノ国立美術学校修了。受賞歴に、2005年第7回アヴェイロ国際陶芸ビエンナーレ入選、第10回カルージュ国際陶芸展入選、2008年第18回ヴァロリス国際陶芸ビエンナーレ入選、2013年第11回マニセス国際陶芸ビエンナーレ入選、2017年第39回グアルドダディーノ陶芸都市国際コンペティション2017特別賞、第13回アヴェイロ国際陶芸ビエンナーレ入選など。

竹村 友里（たけむら・ゆり）

1980年名古屋市生まれ。2004年愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科陶磁専攻卒業。



2009 年金沢卯辰山工芸工房陶芸工房技術研修修了。主な受賞歴に 2006 年第 46 回日本クラフト展招待審査員賞（金子賢治賞）、2007 年第 63 回金沢市工芸展金沢市長奨励賞、2008 年第 8 回国際陶磁器展美濃審査員特別賞など。主な収蔵先に滋賀県立陶芸の森（滋賀）、金沢 21 世紀美術館（石川）、茨城県陶芸美術館（茨城）など。

アナ・スー・ホイ（Anna Sew Hoy）

1978 年ニュージーランド、オークランド生まれ。1998 年ニューヨーク、ビジュアル・アーツ・スクール卒業。2008 年ニューヨーク、バード大学修了。現在、ロサンゼルス（アメリカ）を拠点に制作活動を行う。受賞歴に 2013 年カリフォルニアコミュニティ財団新人作家賞など。収蔵先にロサンゼルスカウンティ美術館（ロサンゼルス、アメリカ）、サンディエゴ現代美術館（サンディエゴ、アメリカ）、サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ、アメリカ）など。

ジョン・メイソン（John Mason）

1927 年アメリカ、ネブラスカ州マドリッド生まれ。1953-1954 年シュイナル・アート、1955-1956 年オーティス・アート・インスティテュートで学ぶ。2019 年 1 月 91 歳で永眠。受賞歴は 1961 年ファイン・アーツ・ギャラリー彫刻賞、1982 年カリフォルニア美術評議会彫刻コミッション賞など多数。主な収蔵先に、カーネギー美術館（ピッツバーグ、アメリカ）、シカゴ美術館（シカゴ、アメリカ）、ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン（ニューヨーク、アメリカ）、ロサンゼルス現代美術館（ロサンゼルス、アメリカ）、ボストン美術館（ボストン、アメリカ）、国立歴史博物館（台北、台湾）、京都国立近代美術館（京都）、愛知県陶磁美術館（愛知）、滋賀県立陶芸の森（滋賀）、世界陶芸センター（利川、韓国）など多数。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡くださいませ。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457